

空けるな危険！ —エスカレーター片側空けパンデミック—

江戸川大学
名誉教授
(文化人類学)

斗鬼 正一



●著者略歴●

1950年鎌倉市生まれ。
明治大学大学院博士後期課程満期退学。
明治大学兼任講師、江戸川大学講師、助教授、教授を経て
名誉教授。
文化人類学、異文化コミュニケーション、民俗学専攻。

「自動階段」登場

足を動かさず階段の方を動かして上るエスカレーターという楽ちん機械が登場したのは、1900（明治33）年開催のパリ万国博覧会。見事一等賞に輝き、閉会後はアメリカのデパートに設置。駅への登場はニューヨークのパワリー駅で1906年、ロンドンにも1911年アールズ・コート駅に降り口が横というshunt typeが設置されました。

本邦初登場も1914（大正3）年3月8日開催の東京大正博覧会で、宣伝文句は「我が国最新の自動階段」。不忍池、上野山間高低差10mに上下2台が設置され、秒速1尺、お代は10銭。それゆえ3月8日が「エスカレーターの日」というわけですが、惜しくも7か月遅れた第二号はやはりデパートで、日本橋三越のオーチス製舶来機でした。

駅への初登場は1925（大正14）年、大阪の新京阪天神橋駅（現阪急天神橋筋六丁目駅）の国産機。東京は秋葉原駅が1932（昭和7）年で、7年遅れながら東京名所となったのでした。

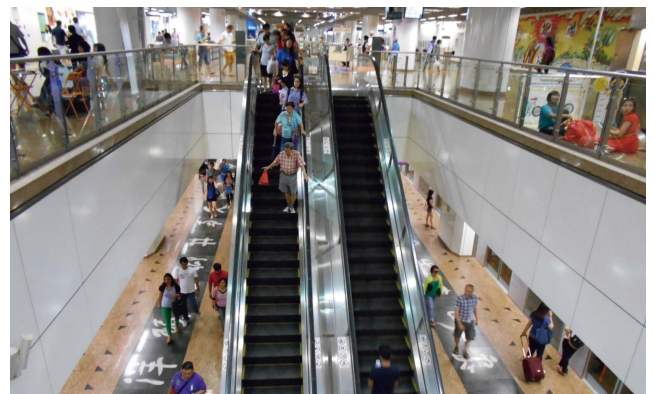
ロンドンに片側空け登場

片側空けの登場は1944年頃のロンドンで、地下鉄駅で右に立ち左を空けるように呼びかけたのです。その後各地に徐々に広がって、現在ではイギリス、フランス、ドイツ、イタリア、スイスなどのヨーロッパ、アメリカ、香港、台湾、中国、韓国などがこの右立左空です。

他方の左立右空は東京など日本各地の他にはシンガポール、オーストラリア、ニュージーランドくらいで、なぜか世界は圧倒的に右立左空なのです。



パリ地下鉄の右立左空



シンガポールは左立右空

新文化は大阪に登場

日本初の片側空けは京阪神急行電鉄梅田駅（現阪急電鉄大阪梅田駅）で始まりました。梅田駅は1967（昭和42）年前後に現在地に移転、当時珍しかった動く歩道やエスカレーターが設置されたのですが、イラチ（せっかち）な大阪人が歩いてしまうというので、「急ぐ方のために左側をお空けください」と掲示や放送で呼びかけました。これが後に大阪では右に立つようになったきっかけです。

東京では自然発生

地下深い営団（現東京メトロ）千代田線新御茶ノ水駅は1969（昭和44）年に開業、長大なエスカレーターが設置されましたが大阪の片側空けは伝播せず、1989（昭和64、平成元）年頃になって自然発生的に始まりました。同年の新聞には「新御茶ノ水駅にロンドン方式現る」という記事が掲載されましたが、ロンドンや大阪とは逆の左立右空でした。JRでも同じ頃、やはり地下深い横須賀線・総武快速線東京駅、新橋駅で左立右空が自然発生しましたが、JRが初めて呼びかけたのは1990（平成2）年開業の京葉線東京駅の動く歩道で、すでに始まっていた左立右空でした。

都心から郊外へ

1960、70年代は駅のエスカレーター自体あまりなかったもので、片側空けは一部限定でしたが、京都市営地下鉄で1981（昭和56）年、神戸市営地下鉄では1985（昭和60）年に呼びかけを始めました。1992（平成4）年近鉄布施駅、翌年京阪京橋駅、JRでも1997（平成9）年北新地駅、大阪天満宮駅、海老江駅、そして2001（平成13）年には大阪駅でも呼びかけ、大阪通勤圏に右立左空けが広がっていきました。

東京の場合も、1993（平成5）年の新聞が、欧米では当たり前のエチケットが東京駅で定着しつつあり、効率的合理的ですばらしいが、都営新宿線、京王新線の新宿駅はまだと報じ、1999（平成11）年には立川では未だに行われていないと書いているように、超都心から徐々に都内、近郊の通勤圏へと広がっていったのです。

片側空けパンデミック

東京式左立右空はその後地方の主要都市へと広がっていきました。地下鉄で呼びかけた札幌では1994（平成6）年頃には左立右空が多くなり、仙台でも2001（平成13）年の新聞に、国際音楽コンクール、サッカーワールドカップで国内外の客を受け入れる開催地としてマナーも一流でありたいのにまだ片側空けが行われていないという記事が載り、その後地下鉄駅で右立左空が呼びかけられました。

名古屋は自然発生で、1990年代末に東京式左立右空が行われるようになり、福岡は1995（平成7）年にマナーが悪く片側を空けないという新聞投書が掲載されたりしましたが、その後東京式になりました。

さらに岡山、広島、鹿児島など、新幹線沿線の主要都市にも東京式が広がり、バリアフリー法でエスカ



たった5段世界最短エスカレーターでも片側空け（川崎市）
レーターが急増した近年では一部の小規模な駅でも東京式になっています。

また1990年代後半には東京で駅以外にも広がり始め、2000年代に入ると首都圏、京阪神などではデパートから大学まで、至る所で当然のマナーであるかのごとく広まり、まさに片側空けパンデミックとなっています。

天下分け目の関ヶ原、天王山

大阪式、東京式はそれぞれ広がったのですが、北の札幌、仙台から、首都圏、静岡や愛知の多くの駅、そして岐阜の東海道本線大垣までは東京式です。天下分け目の関ヶ原から先はエスカレーターが無い駅が続き、滋賀、京都も大阪通勤客が多いと大阪式だったり、観光客が多い新幹線駅では東京式だったりと不明確です。

ところがいま一つの天下分け目の天王山を過ぎると、阪神地区と兵庫、奈良などの大阪通勤圏、山陽本線では西明石、さらに姫路まで大阪式で、その先は岡山、広島、博多、鹿児島中央といった新幹線駅などが再び東京式になります。

つまり全国的には東京式が圧倒的で、阪神地区と周辺だけが右立左空、天下分け目の関ヶ原、天王山、兵庫と岡山の間が境界というわけです。

右か左か それが問題だ

なぜ右立左空、左立右空が混在するようになったのかですが、まずは呼びかけがあった場合はその通りになります。イギリスや1997年までイギリス植民地だった香港、中国、台湾、韓国、大阪などが右立左空になったのは、呼びかけがきっかけです。また、仙台、京都がバラバラなのは、地下鉄が他社と異なる呼びかけをしたことが影響しています。

他方で自然発生の場合は通行法と同じになりますし、呼びかけ自体が通行法に影響された場合もあります。つまりフランス、ドイツ、イタリア、アメリカ、中国、

台湾、韓国などは右立左空ですが、右側通行、つまり追い越しは左からという国で、他方東京などの日本各地、オーストラリア、ニュージーランド、シンガポールは左立右空ですが、左側通行、つまり追い越しは右からです。

実際欧米では道路の走行車線と追い越し車線の関係と同じと意識している人も多いですし、日本の場合、国鉄時代は列車だけでなく歩行者も多くの駅構内で左側通行でしたから、左に寄るのは元々自然なことだったのです。

ロンドン左空けの謎

では左側通行のロンドンでなぜ右立左空を呼び掛けたのか？これは長年謎とされ、いろいろな説が出ています。例えば1920年代には横に降りる形式だったからという説があります。今日のエスカレーターはステップに縦溝があり、降り口も櫛の歯状で足先が引き込まれない comb type ですから、進行方向にそのまま降りますが、かつては縦溝が無く、櫛の歯状でもない shunt type でした。そのため足先を挟まれる危険があるので、降り口は進行方向ではなく右側で、それゆえ右に立ったというわけです。ただし左に降りる型や、正面に三角形に突き出た壁があって両側に降りる型もありましたから、必ずしも説明がつかいません。

もう一つは、初期のエスカレーターはベルトが右側にしかないものがあったからという説です。おまけに当時はステップではなく斜面が動くなどというもありましたから、必然的に右側のベルトにつかまる必要があったという説です。

博覧会、オリンピックと片側空け

梅田駅移転の1967（昭和42）年当時は戦後復興後の高度経済成長期ですが、海外旅行はまだ遠い夢、外国人居住者や観光客も現在とは比較にならないほど少なく、しかも京浜、京阪神、米軍基地の欧米人に偏っていました。このようにまだ外国人が珍しかった1970（昭和45）年に開催されたのが日本万国博覧会（大阪万博）で、多くの日本人が世界の人々の目を意識した時代でもありました。

仙台で右立左空が始まったのも、ワールドカップ（2002年）を控えて世界の目を意識した時期でしたが、これは中国でも同様で、2008年の北京オリンピック開催が決定すると、地下鉄駅で「文明乗車、先下后上」、エスカレーターの「文明乗梯 右側站立 左側急行」が呼び掛けられ、右立左空が行われるようになりました。



万博を控えた上海のマナーキャンペーン

上海でも2010年に上海国際博覧会が開催されることになると、地下鉄駅に「請左行右立 文明乗梯」といった看板が設置され、エスカレーター乗り口にも「左行右立」、「歩区」、「走区」といった表示が取り付けられたのです。

つまり、日中ともに、片側空けが始まったのは、オリンピック、万博といった国家、都市の威信をかけた大行事を控えて海外の目を意識した時期だったというわけです。

欧米流エチケットの信奉者たち

東京で片側空けが自然発生した頃の新聞には、日本は駅にエスカレーターがなく思いやりのない社会だ、アメリカを見習うべき、などといった海外渡航者、識者の投稿がたびたび掲載されていますが、マナーに関しても、欧米から帰国してマナーが確立していないことに驚いた、ロンドンで教わったエスカレーターで片側を空けておくマナーをまねたい、といった主張が繰り返されています。英語ペラペラ、国際舞台で活躍する花形職業とされた日本航空の stewardess もマナー講座本を出版し、レストランでは貧乏ゆすり、ゲップはだめ、そして「海外ではエスカレーターは左空け」と教えていました。

片側空け発生の背景には、遅れた日本人は立派なマナーの欧米人に学ぶべきという意識、主張があったというわけです。

大都会から地方へ

国内でも片側空けパンデミックの背景には大都会のマナーに学ぶべきという意識がありました。京都、神戸の地下鉄ではすでに実行されているのに福岡はマナーがひどく片側空けをしないと、東京の人が他の人のことを考えて行動するのはすごい、などという

新聞投書からもわかるように、大都会の片側空けは洗練されたマナーとして学ぶべきと強く意識されていたのです。

さらに大都会といっても、大阪式の広がりほぼ大阪通勤圏だけで、他方の東京式は全国に拡大というように、欧米文化を真っ先に導入する東京こそが先進的、見習うべき対象という意識があったというわけです。

もっとモーレツダッシュして！

ロンドンの地下鉄で片側空けが呼びかけられた1944年頃はまさに第二次世界大戦の戦時体制下。輸送効率向上という国家目標のもと、何ごとともはやいことは良いこととされた時代に、楽に、楽しく上る道具のはずのエスカレーターが、急ぐための道具に変わってしまったのです。

大阪で片側空けが呼びかけられたのも、「夢の超特急」東海道新幹線が疾走し、高速道路網も拡大、他方で歩行者を横断歩道橋に追い上げた高度経済成長期。東京で片側空けが始まったのもバブル経済期で、とにかく効率を上げて大量生産大量消費。まさに「もっとモーレツダッシュして！」「24時間戦えますか」のCMに象徴される、はやいことは良いことの時代でした。

要するに「急ぐ方のために」片側を空けるのは、さすが「紳士の国英国」だからでもなければ、「美しい国日本」の気配りでもなく、今も続く車優先の横断歩道と同類の、効率一辺倒、弱者、多様性への配慮が欠如した前世紀の申し子というわけなのです。

空けるな危険 エスカレーターの取説

高齢者、杖や松葉杖の人、病気や障害で左右どちらかにしか立てない人、子ども連れ、大きな荷物を持った人などにとって、横をすり抜けて歩かれるのは大変な恐怖なのですが、あまり知られていないものの事故も多く、2019（平成31、令和元）年に救急搬送された人は東京消防庁管内だけで1428人。多くが乗り方不良、つまり取説を守らないことが原因です。

エスカレーターの規格は歩くことを想定していません。幅は必ずベルトを握れる110cm以下で、片側を歩く幅はありません。階段と違って高さの規定はなく、20cm以上もありますが、乗る時、降りる時は段差が無いからです。ステップは張り出した形で躓きやすく、おまけに角はギザギザの金属製ですから、急停止でもしたらケガ必定。ですから取説では立ち止まってベルトを握る、となっているのです。



ソウルの歩かず2列キャンペーン

エスカレーターも電子レンジと同じく機械ですから、取説を守らないと当然危険。つまりエスカレーターを歩くのは、電子レンジで洗濯物を乾かして火災発生というのと同じで、まさに「空けるな危険」なのです。

エスカレーター乗り方改革で生き方改革

高度経済成長期の日本人が速足、早飯だったように、私たちの行動はいつの間にかやらの社会、時代の価値観に支配されています。つまりエスカレーター歩きが「止められない、止まらない」オイソガ氏も、実は自分で急いでいるのではなく、今なお蔓延する「もっとモーレツダッシュして」、「24時間戦えますか」的価値観によって急がされているのです。一条乱れず片側に並ぶのも、日本社会に極めて強い同調圧力に押されて並ばされてしまうのですが、こうした価値観こそがブラック企業が跋扈して、24時間戦う「ジャパニーズビジネスマン」が過労死したりする背景にあるのです。

こうした価値観は心の豊かさや多様性を大事にする現代にはまったくの時代遅れ。ですからこんな前世紀の遺物にサヨナラすることも、実は働き方改革、生き方改革、そしてより良い社会への初めの一歩というわけなのです。

【参考】

朝日新聞『論座』「エスカレーターの片側空けは前世紀の遺物である 乗り方改革で妖怪いそぎを退治しよう」

<https://webronza.asahi.com/national/articles/2019080600001.html?page=1>

朝日新聞『論座』「エスカレーター乗り方改革で働き方改革、生き方改革を 効率一辺倒、弱者や多様性への配慮欠如を乗り越えたニューノーマルめざして」

<https://webronza.asahi.com/national/articles/2021041400003.html?page=1>

東京都理学療法士協会エスカレーターマナーアップ推進委員会
<http://www.pttokyo.net/info/2019/03/10038.html>